

第1回「今回の改定の趣旨について ～なぜ約70年振りにローマ字のつづり方が見直されたのか～」

ナレーション：

私たちの身の回りでは、ローマ字の表記があちこちで使われています。

駅名、地名、人の名前、観光案内。

でも、よく見ると……

つづり方が少しずつ違うことに気がきます。

昭和29年の旧内閣告示「ローマ字のつづり方」から、約70年。

令和7年12月に、現代社会に合わせた「改定」が行われました。

女性：

ついに内閣告示「ローマ字のつづり方」が改定されました。

これは昭和29年の旧内閣告示を、現代の言語生活に即して見直すものです。

男性：

ええ、ついに改定が行われましたね。

旧内閣告示の考え方と、実際の社会生活における使用状況との間には、

少なからずズレが生じていました。

学校教育で主に扱われてきた訓令式、例えば「si」や「ti」といったつづり方は、

日常生活の中では、必ずしも広く使われているとは言えない状況がありました。

女性：その一方で、パスポートや道路標識など、公的な表示の多くで、

「shi」や「chi」といった表記が、既に定着しています。

今回の改定では、こうした社会の実態を踏まえ、

これらの定着したつづり方が「本表」として示されました。

男性：そもそもローマ字使用の主な目的は、

国語を書き表し、円滑なコミュニケーションを支えることです。

日本語を母語としない人々を含め、誰にとっても、分かりやすく、

受け入れやすいものであることが求められます。

女性：

今回の改定は、国語におけるローマ字が将来にわたって適切に用いられ、

円滑な言語コミュニケーションの実現に資することを目的としています。

なお、スマホやパソコンなどの情報機器で用いられる、いわゆるローマ字入力、

漢字や仮名などを表示するための手段であり、ローマ字のつづり方とは別のものです。

今回の改定は、ローマ字入力の方法に変更を求めるものではありません。

ナレーション：

改定の三つの考え方

女性：

今回の改定の考え方は、大きく三つに整理されています。

- 一、将来に向けてローマ字のつづり方を安定させる
- 二、国語を表記する上で十分な機能を果たせるものにする
- 三、各分野で定着してきた慣用を整理する

一つ目は、将来に向けて、ローマ字のつづり方を安定させることです。

同じ音に対して、複数のつづり方が用いられている状況を整理し、統一的な考え方が示されています。

男性：

二つ目は、国語を表記する上で十分な機能を果たせるものとする事です。

例えば長音の扱いなど、言葉の判別に関わる音の違いが、適切に表記に反映されるよう配慮されています。

女性：

三つ目は、

各分野で定着してきた慣用を整理することです。

国際的に普及しているものなど、各分野で用いることのある表記について、混乱を避けるため、これまでの使用実態を尊重しつつ、新しい考え方との関係が明らかにされています。

男性：

現状に混乱を生じさせることなく、将来に向けて信頼できるよりどころを示す。

それが、今回の改定の目的です。

女性：

今回は、「本表」になって変わった点と、内閣告示の考え方について詳しく見ていきます。